



# 佐事研だより

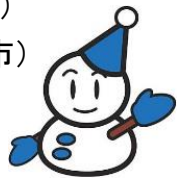


佐賀県公立小中学校事務研究会  
編集発行人 会長 井手 和久

会員各位

日増しに寒さも厳しくなってきましたが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。早いもので今年もあと 1 か月となりました。忙しい年末を前に体調を崩さぬよう過ごしたいものですね。佐事研だより第 101 号は以下の内容です。

- ◆共通テーマ 「佐事研役員紹介」 (佐事研 事務局長 七田 英幸 事務長)
- ◆フリーテーマ 「もう探さない! 校務用 PC のデータフォルダ構成統一」 (神崎市)



## 佐事研役員紹介

～「佐事研だより」から見える  
佐事研のこれまで、そして未来～

佐事研 事務局長 七田 英幸  
(白石町立白石中学校 事務長)



唐津市の中学校を振り出しに、現在 8 校目  
【趣味】アウトドア  
【好きな言葉】  
「意思あるところに、道は開ける。」

### 佐事研発足!

前回の「佐事研だより」は、記念すべき第 100 号となりました。「県事研だより」(当時) 第 1 号は、設立大会である第 1 回佐事研大会 (H9. 2. 27) の開催を告げる会報として、同年 3 月 17 日に発行され、その産声をあげています。また、紙面には、当時の設立の熱気が覚めやらない様子が、鮮明に記されています。第 100 号発行までは、その後、実に 20 年ほど経過していることとなります。

設立大会当時、私は、主事として多久市の中学校に勤務していました。今でも、松田晃(故人) 設立準備会代表(初代会長)や古川治準備会事務局長(第 6 代会長)などが中心となり、数年来に及ぶ準備期間を経て、その努力が見事に結実した設立総会であったと鮮明に記憶しています。



## 佐事研は努力の結晶



県全体の研究会組織を発足させることは、並大抵の努力ではなかったと思います。何事も事を成すには、それなりの準備と行動力が必要です。当時設立に携わった先輩方は、相当の決意や覚悟、執念にすら感じる情熱を持って設立に臨まれたと思います。私たち、現在ある会員は、そうした先輩たちの決意や努力、行動力に敬意を払い、そして、佐事研を継承、発展させていかなければなりません。

## 佐事研が果たした役割

佐事研の歴史を振り返るとき、いくつかのターニングポイントがあったことは、皆さんも周知のとおりです。平成10年からの標準的職務の研究開始、平成11年からの共同実施の先行研究（旧小城町）、平成14年の第1次佐事研ビジョン発表、平成19年3月の事務改善検討委員会の設置、平成20年度の共同実施全県展開、平成23年度からの管理職事務長制の導入（平成25年からは統括事務長設置）など、佐事研はその時々々の施策にも大きく関与・研究してきました。

区分	職務内容	職務内容
学校運営	企画運営に関すること	企画運営委員会等への参画
	施設管理に関すること	校舎・施設等の管理、設備関係業務
	安全管理に関すること	学校安全、緊急事態対応に係る業務
	学校事務全般に関すること	学校事務全般に係る企画、指導、助言
総務	文書に関すること	文書関係業務
	情報に関すること	学校向け設備等の管理・保守業務 学校が保有する個人情報保護の推進、情報公開の推進に関する業務 人材情報の管理及び活用推進
	各種証明に関すること	児童生徒及び教職員の証明関係業務
	調査統計に関すること	学校基本調査、その他調査統計関係業務
	渉外に関すること	管外庁、PTA、その他団体との渉外関係業務
	任免に関すること	採用、異動、退職関係業務 職員給与関係業務 人事記録（履歴書等）関係業務 その他人事関係業務
服務に関すること	出勤簿等関係業務の整理等管理関係業務	

標準的職務一覧表 ※一部抜粋

## 受け継がれる知見

記念すべき第100号は、第39回研究大会報告号でした。その紙面には、「チーム学校」「事務職員がグリップする業務を広げる」「学校徴収金システムの普及」「児童手当からの天引き」「改革」「iPadやビックデータの活用」「代替可能な職業」「人工知能：AI」などのキーワードが躍りました。

また、当日の司会を任用一本化後の職員が務めてくれたり、クロストークでは、中堅事務職員が若者らしい発想や着眼点で大会を大いに盛り上げてくれたりと、成功へと導いてくれました。

まさに、設立当時からすると隔世の感がありますが、設立後わずか20年後の現在がそうでありますので、今後10年、20年後にはどのような世界が待ち受けているのでしょうか？容易に想像はできませんが、AIはもっと進展し、もしかしたら日本の財政は危機的な状況になっているかもしれません。



第39回研究大会の様子

## さらなる飛躍を！

私たちは、世の中の流れに逆らうことはできません。しかし、流されることを待ってもいけません。先人たちの労に感謝し、さらに積み上げていくためには、視野を大きく広げ、時代の流れに順応した学校事務を確立しなければなりません。「学校事務」は大きな転換期を迎えているかもしれません。皆さんの英知を結集して、揺るぎない「学校事務」を創出していきましょう。20年後の躍動感ある200号を楽しみにしています。



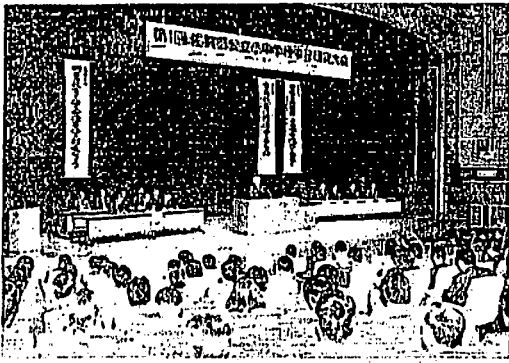
佐賀県の羅針盤G・D

# 県事研だより

佐賀県公立小中学校事務研究会  
第 1 号 平成9年3月17日  
編集発行人 : 松田 晃

## 第一回 県事務研究大会開催される!

佐賀県公立小中学校事務研究会の設立なる  
佐賀県の学校事務の歴史に新たな一ページ



研究大会には、県内事務職員として来賓及び県外参加者も含め総勢269名が集い、大いなる期待と緊張のなか、今村博樹会副代表の言葉で幕を開けました。

まず、松田博樹会代表より本研究会設立の主旨と目的そして設立にあたっての各教育関係機関、諸団体からの理解、ご支援に対するお礼がはいさつとしてなされました。また、ここに本研究会設立となった喜びとともに、県下全事務職員の研究研修を目的とした県事研への結果を訴えられました。

来賓として、  
佐賀県教育員 川久保啓明 様  
県教育委員会参事 光武一行 様

第一回佐賀県公立小中学校事務研究大会が右記大会テーマのもと、二月二十七日佐賀市のアバンセで盛大に開催され、会場いっぱいに参加された方々の絶大なる拍手喝采により、佐賀県公立小中学校事務研究会がここに成立しました。

明日の教育を担う学校事務を創造しよう

教育事務局長会長 島津末次 様

小中学校校長会会長 岩本一良 様

県学校用品株式会社事務 江重口栄 様

が駆けつけて下さり、本研究会に対する期待と今後の運営への積極的支援の申出を、お祝いの言葉として皆様からいただきました。

その後、教職員総務会光武一行様による県教育委員会は、県教委の期待する学校職員の一員としての事務職員の在り方が、『事務職員に期待するもの』という課題でお話されました。大きく変化していく学校教育の中で、その教育活動の一環を担っているという大いなる認識を持ってほしいという趣意内容に、私たち事務職員に対する

県教委の期待の大きさをうかがい知ることができました。

全体協議会では、多久中西部の平方津蔵さん、三善幸彦さん、中野の近藤ひろこさんが順次ご出席され、まず、これまでの経過報告が古川博樹会事務局長よりなされました。

次に、会期に ついての提案があり、これからみなさんの活躍をどんどん吸収し

知識をしばって佐賀の事情にあったものにしてほしいとの考えが述べられました。

これについて、「各地区ごとにおこなっている研修会と県事研のつながりはどうなっているのか」「事務職員は全員、必ず県事研の会員にならなくてはならないのか」「社会的地位の向上について準備会はどのように考えているのか」といった質問が出されました。

次に、役員、事業計画、予算についての提案があり、それに関する質問、回答の後、参加者委員の拍手喝采による承認を受け、佐賀県公立小中学校事務研究会が成立しました。

昼食をはさんで、京都市職員研修所副所長藤川貞徳様により「学校事務職員―その過去・現在・未来」という演題で、貴重なお話をいただきました。後のアンケートでも「事務職員の間に立った大変有意義な講演内容に大きな感動とショックを受け、自分自身を振り返る機会を与えていただいた」という声が多く寄せられた。本当にすばらしいお話でした。(講演内容は後面に記載しています。)

最後は土井副代表が、本日御声をあげたばかりの本研究会への全事務職員の協力と

今後の発展への期待を閉会のあいさつとして、冷めやまぬ熱気の中で、第一回佐賀県公立小中学校事務研究大会の幕を閉じました。

### 県教委講演

#### 事務職員に期待するもの

佐賀県教育委員 教職員課 光武一行 氏

本日、事務職員の皆さんも学校職員の一員であるという共通認識を持つていただくことが必要ではないかということを一語一語を述べながら、私の所感なりを述べさせていただきます。

教員とは、事務職員とは、限全体での研修への取組という点で、私たちも十分な認識をしていました。

事務職員というのは、学校を支えていく重要な職務の位置にあるということ(認識)を私たち自身も持っていますが、特に、学校の中で教員の方にとどのような認識があるかという点で、若干の差がある面があります。

教員との連携を強めさせるためにも、事務職員はもっと教員の中へ入り

込み、例えば備品の管理などについては、何をどうしているのかと強く指示をしていたことが大それたと思います。

学校管理職の中では「事務長は事務をつかさどる」となっていますが、そのバックボーンには、教育活動の手をそでフォローしているという大きな大きな認識が必要だろうし、一般教員の方々がそういう認識を持っていただくことが大事だろうと思います。また、お互いの認識のずれが生じている現場教員との連携の融合する部分については、勇躍し、奮闘していく必要があるのではないかと感じています。教育活動に随伴している、教育活動の最たるものを担っているんだという自負と大いなる認識を持って

ただきたいと重ねてお願いいたします。

また、教育活動の一環を担っているという認識を持っていただくためには、今教育はどういう方向に変わっていくかという方向性を十分ご理解していただきたいと思います。

事務職員の皆さん方も本研究会がやっとなら、全体的な組織ができたところであり、県教委サイドとしても、やっとなら、事務職員の研修会を始めたところですが、そういうところを私たちも踏まえながら、この会のさらなる発展を祈念いたしまして、終わりたいと思っております。ありがとうございました。

#### 事務局員公募のお知らせ

県事研事務局員を募集しています！  
熱意のある方、ぜひご応募下さい！  
希望者は、県事研事務局長(春日小・古川)まで。



佐賀県大和町尼寺1429  
8 0962 (62) 2128

学校事務職員—その過去・現在・未来

京都市關西図書館 副館長 (前京都市立赤松教育センター 指導主任)

樋爪良紀氏



今日は、本におめでどういいます。今、全国の研究会あるいは事務職員は、本気で探求している最中であつて、よくよくとらえて、はじめて、そういう意味で、今まさにタイムリーな時期の研究会の発足ではないかと思つて、明日から佐賀県の教育と佐賀県の子どもたちのために、皆様方の英知とエネルギーを結集していただければ、更に大きな成果が期待できるのではないかと願つて、本日は「学校事務職員—その過去・現在・未来」というテーマで皆様方のスタアに向かつてのものはむけにさせていただきます。と思つて、お手元のレジュメに沿つてお話をいたします。

事務を創造しよう



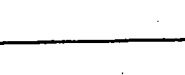
いきました。事務職員という職種そのものがなかつたのです。こういふ以前の考え方が、残念ながら今にまでつながられているのではないかと願われる部分がございます。現在でも、学校教育の現場では、この考え方がベースになつていっているのではないかと、つまり、教員中心主義が完全に払拭されていっているのではないのでしょうか。そして初期、事務職員は(学校の中で)他人扱い・周縁・間人ではなかつたか、更にそれは今でもありはしないかと思つてお話をいたします。

きな影響力を持つていられるかを理解していただくことは非常に大事だということになります。学校を構成する全ての職能が学校の共通課題について共通理解していく、そういう関わり合い方を私たちが事務職員もしてはならないし、数の多い方がそれを考えなくてはなりません。今それが抜けていっているのではないのでしょうか。事務職員の意見を聞ける学校体制の中では、子どもの教育にもはつちつとしたものが出てきます。

私は、校長会、新任管理職研修会、公務員同僚会を持ち、特風性から抜けておきます。職員室の入口に職員の名前が張つてあつたり、校舎案内図に掲げてある学校がいくらあるでしょう。初めて(学校に)来た人たちがわかるようにしてあげるといふ親切が、学校にはありません。その一方で、子どもの人権を大切にしようといつてい

他の教職員に対する一定の発言も生きていくのです。『自己啓発』については、これは本当に大事だと思つて、言ひ換えれば研修ということになりませんが、もう少し言ひますと、事務職員自身が経験主義から脱皮していくというのが非常に大切なことである。私の場合「我々の」といふ個人所有格のしゃべり方ではない、もつともっと広い視野で考えていく必要がある。前へ動いていく以上、我々の発想の仕方や視点も変わつていって当たり前なわけで、特に「学校事務」という言い方ではなく、「学校の事務」という思いを持つて自己啓発に当たつていく必要があるのではないのでしょうか。決まりきつた中でどういふか、自分から入り込んでいくのは大切なことだと思つてお話をいたします。

『険しい道を知らずに歩きたし険しい道を知つても歩きた。』という言葉がございます。佐賀県の研究が、今後ますます今日を契機として充実・発展されて、日本の事務職員に、励まして勇気と期待を抱かせていただけたらいいなと思つて、今後とも「種をまきお折して終わらせていただきます。ありがとうございました。







## 各地区財務の取組紹介

### 神崎市『校務用パソコンのフォルダ構成統一』

神崎市立脊振小学校 主事 重森 卓人

神崎市には、神崎市北部学校運営支援室と神崎市南部学校運営支援室があり、合同で共同実施を行っています。支援室の業務では、南北の支援室から1人ずつ担当者を割り当てるようになっており、各々最低1業務を担当するようにしています。今回は、それらの業務の中から『校務用パソコンのフォルダ構成統一』の取組についてご紹介します。

#### 《 取組実施までの経緯 》

現在、事務職員が取り扱う文書や記録等の情報資源は、大きく分けると紙媒体と電子データの2つがあります。紙媒体については、平成25年度に全県下で県費文書ファイリングの統一が実施され、さらに、平成26年度には、神崎市内での市費文書ファイリングの統一を行いました。

しかし、電子データについては、明確な分類基準がなく、保存する場所やその構成についても事務職員ごとに異なっていました。そのため、新採事務職員や転入事務職員を支援する際、そのフォルダ構成と自分が普段使用しているフォルダ構成が大幅に違う場合もあり、そのようなときはパソコン内のデータ検索に相当な時間を費やすこともありました。

ICTの普及が進み、情報資源の形も紙媒体から電子データへ移行していくなかで、「事務職員がどの学校に行っても同じ環境(フォルダ構成)で仕事ができる」ということは、業務の効率化のためにはとても重要なことです。そこで、平成27年度から新たな支援室業務として、『校務用パソコンのフォルダ構成の統一』の研究を実施することになりました。



#### 《 取組の内容 》

平成27年度に室員に対してアンケートや情報収集を行い、担当者を中心に検討を重ねた結果、フォルダ構成は、データを大きく【県費】と【市費】に分類してそれぞれに大分類を作成し、その中に中分類を設ける形式としました。分類方法を統一し、データの保存場所を明確にすることでデータの整理が進み、必要とするデータが探しやすくなったことで、業務の効率化に一定の効果が見られました。

フォルダ構成の統一化は完了しましたが、どのようなデータをどこに保存するかは事務職員ごとに異なること、現在の構成にはまだ改良の余地があるように思われたことから、今年度はフォルダ構成を見直し、再検討して改良を行った上でデータの保存に関するルールを作成し、定着させていくように計画しました。

そこで、まずは【県費】と【市費】の2種類の大分類の見直しを行い、【県費】・【市費】・【学校】・【共同実施・事務研】の4種類へ再編成しました。さらに、【県費】と【市費】だけでは分類できないものを保存する場所を作り、より分かりやすい構成に変更を行いました。また、データ保存のルール作成に関しては、中分類のフォルダには小分類のフォルダを作成し、通知文や提出資料等を管理しやすいようにしました。





共済組合の様式はどのフォルダにあるのかな・・・？



## 【中分類】

- 名前
- 01 ファイル授受システム
  - 02 例月電算報告
  - 03 給与
  - 04 期末勤勉手当
  - 05 通勤手当
  - 06 扶養手当
  - 07 住居手当
  - 08 児童手当
  - 09 その他手当
  - 10 諸手当調査
  - 11 時間外手当
  - 12 退職手当
  - 13 特殊業務
  - 14 臨任
  - 15 非常勤講師
  - 16 旅費
  - 17 服務
  - 18 育児休業
  - 19 昇給昇格
  - 20 履歴書
  - 21 給与台帳
  - 22 区市町村民税
  - 23 年末調整
  - 24 異動事務
  - 25 共済組合
  - 26 互助会
  - 27 監査

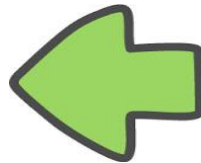
## 【大分類】

- 名前
- 01 具費
  - 02 市費
  - 03 学校
  - 04 共同実施・事務研



## 【小分類】

- 名前
- 25-1 文書
  - 25-2 調査
  - 25-3 様式
  - 25-4 不要
  - 25-5 コード表
  - 25-6 貸付
  - 25-7 退職
  - 25-8 検認事務
  - 25-9 人間ドック



### 《 今後の目標 》

データの保存に関する問題点や要望を洗い出し、より良いフォルダ構成への改良やルールの追加、変更を行いたいと考えています。特に、ルールに関しては数が少ないため、これから充実させる必要があると考えています。今後も試行錯誤を繰り返しながら、「事務職員がどの学校に行っても同じ環境(フォルダ構成)で仕事ができる」ことが実現できるように取組を続けていきたいと思ひます。



～編集後記～

佐事研だより第101号はいかがだったでしょうか。お忙しい中に、原稿を執筆していただきありがとうございました。

「佐事研だより」に関してご意見・ご要望等ございましたら、今後の参考にさせていただきますので、各地区の情報推進部員までお知らせください。

佐事研情報推進部

